令和6年度 学校評価

評価基準 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

I. 教育理念・目標

評価項目	自己評価	学校間評価
1.理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	4.0	4.0
2.学校における職業教育の特色は何か		
3.社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか		
4.学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか		
5.各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか		

II. 学校運営

評価項目	自己評価	学校間評価
1.目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.9	3.9
2.事業計画に沿った運営方針が策定されているか		
3.運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか		
4.人事・給与に関する制度は整備されているか		
5.教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか		
6.業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか		
7.教育活動等に関する情報公開が適正にされているか		
8.情報システム化等による業務の効率化が図られているか		

III. 教育活動

評価項目	自己評価	学校間評価
1.教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.6	3.8
2.教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか		
3.学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		
4.キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか		
5.関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか		
6.関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか		
7.授業評価の実施・評価体制はあるか		
8.職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか		
9.成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか		
10.資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか		
11.人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		
12.関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか		
13.関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか		
14.職員の能力開発のための研修等が行われているか		
15.教員の研究活動を保障（時間的・財政的・環境的）しているか		
16.教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか		

IV. 学修成果

評価項目	自己評価	学校間評価
1.就職率の向上が図られているか	3.6	3.6
2.資格取得率の向上が図られているか		
3.退学率の低減が図られているか		
4.卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか		
5.卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか		

V. 学生支援

評価項目	自己評価	学校間評価
1.進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7	4.0
2.学生相談に関する体制は整備されているか		
3.学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		
4.学生の健康管理を担う組織体制はあるか		
5.課外活動に対する支援体制は整備されているか		
6.学生の生活環境の支援は行われているか		
7.保護者と適切に連携しているか		
8.卒業生への支援体制はあるか		
9.社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		
10.高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか		

VI. 教育環境

評価項目	自己評価	学校間評価
1.施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4.0	4.0
2.学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか		
3.防災に対する体制は整備されているか		

VII. 学生の受け入れ募集

評価項目	自己評価	学校間評価
1.学生募集活動は、適正に行われているか	4.0	4.0
2.学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		
3.学納金は妥当なものとなっているか		

VIII. 財務

評価項目	自己評価	学校間評価
1.中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4.0	4.0
2.予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		
3.財政について会計監査が適正に行われているか		
4.財務情報公開の体制整備はできているか		

IX. 法令等の遵守

評価項目	自己評価	学校間評価
1.法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8	4.0
2.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		
3.自己評価の実施と問題点の改善を行っているか		
4.自己評価結果を公開しているか		
5.学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか		

X. 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価	学校間評価
1.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0	4.0
2.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		
3.地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか		

【令和6年度重点的に取り組んだ目標の評価結果】

目標1. 質の高い教育実践

臨床判断能力に必要な基礎的能力の強化について、シミュレーション教育を多く取り入れた。周囲の環境にリアリティをもたせることや患者役を教官が演じる等の工夫をし、可能な限り現場に近い状況となるよう調整した。学生は緊張感の中でも看護師として何をどのように行動すべきか課題を明らかにしており、実習場面で意識して学習内容を活用できていた。カリキュラム改正主旨の一つにコミュニケーション能力の向上があるが、今後はさらに教育を強化する必要がある。IT化やSNSが普及し、さらにコロナ禍に准看護師教育を受けた学生にとって、対面で看護の対象とコミュニケーションをとることは困難を要する。看護師として、対象や医療者とのコミュニケーションをどのようにとるか、またその土台として自己の傾向を知ることも重要であり、日頃から教育的に関わる必要がある。

研究授業の実施では、他校の教員4名が参加し、活発な意見交換ができた。他校の教員からの意見により、自校の教授内容の優れている点や改善が必要な点について気づくことができた。教官1名の実施にとどまったので、今後は複数の教官が実施できるよう計画する。

目標2. 基礎学力の高い入学生の確保

例年実施していた合同説明会に加え、個別説明会を実施した。合同説明会では3回29名が参加し、そのうち13名が受験につながった(44.8%)。個別説明会には18名が参加し、うち11名が受験した(61.1%)。また、コロナ禍で近隣准看護学校への案内を電話や資料郵送にとどめていたが、今年度はできる限り訪問して説明し応募を依頼した。訪問することで准看護学生の希望や関心事等の把握ができ、学生募集のヒントにつながった。ホームページについて行事や実習ごとに更新し学校の様子が把握できるように努めた。

目標3. 学生個々に応じたキャリア支援

准看護師免許は取得しているが実務経験がない学生が多く、自己のキャリアを考えるための材料が少ないことから、例年の教官や園内講師による講義に加え、外部業者からの説明(講義)を取り入れた。看護師として求められる人材、就職先の選択、在学中に身につけること、必要な能力などの説明を受け、自己のキャリアについて考える機会となった。今後は、卒業生の動向を把握し、適切な進路支援ができるようにする。

目標4. 働きやすい職場環境づくり

業務整理に着手したが、すべての改善は今後の課題である。各職員が年次休暇を計画的に取得できた。健康管理については、校内で感染が拡大することなく運用できた。